

令和 7 年 2 月 1 4 日

「コミュニティ・スクール西ケ原」学校運営協議会 委員長 内海三保子

1 「コミュニティ・スクール西ケ原」学校運営協議会(学校関係者評価委員会)の構成

委員長	内海三保子	副委員長	檜垣 昌子
副委員長	武藤 静芳	委員	渡辺 勝己
委員	堀田 秀一	委員	伊藤 秀夫
委員	五十嵐光雄	委員	鉄竹 昌利
委員	池田 一雄	委員	橋本 聡司
委員	須賀 潤子	委員	染谷 武
委員	渡邊 鉄哉	委員	松田かおる
委員	小野澤哲男		
委員	橋本 雅美		
アドバイザー	山本 豊		

以上学校側委員をのぞく 17 名

2 「コミュニティ・スクール西ケ原」学校運営協議会(学校関係者評価委員会)の主な活動

- | | |
|--------------------|---|
| 令和 6 年 4 月 1 9 日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 18 年目の協議会発足、新委員等の任命及び委嘱。 ・ 学校経営計画（めざす学校像・児童像・教師像、中期目標と今年度の取り組み目標）、人事構想、教育課程、学校予算概要について学校から説明を受け、協議し、承認した。 ・ ようこそ先輩交流会の開催の仕方について確認した。 |
| 令和 6 年 8 月 2 3 日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大学校運営協議会を開催（出席者：32 名）した。 ・ 4～7 月の教育活動、学力調査・いじめ不登校調査の結果について学校から説明を受け、協議した。 ・ 教員公募について報告を受けた。来年度は、人事を考える上で公募が選択肢に入る可能性があることを確認した。 ・ 拡大学校運営協議会参加諸団体との情報共有を行った。 |
| 令和 6 年 1 2 月 1 3 日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 8～12 月について学校から説明を受け、協議した。 ・ 学校評価（自己評価、学校運営協議会委員の自己評価アンケート、学校関係者評価）の手順、児童・保護者アンケート、教員による自己評価の結果・考察について学校から報告を受け、協議した。 |
| 令和 7 年 2 月 1 4 日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会委員の自己評価アンケートの結果について学校から報告を受け、協議した。自己評価が妥当であるかどうかについて協議し、学校関係者評価として見解をまとめた。 ・ 次年度の教育課程、学校運営協議会の活動計画について確認した。 |

3 自己評価の結果と分析（自己評価の評語A：目標を十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らなかった）

① 教育課程・学習指導	取組目標	達成目標	学校関係者評価
児童の知識・技能、思考力・判断力・表現力等を育成する。	B	A	妥当である
児童の学びに向かう力、人間性等を育成する。	A	A	妥当である

【見解】校内研究を中心に授業改善が進み、児童の学力向上につながっていると考えられる。

② キャリア教育（進路指導）	取組目標	達成目標	学校関係者評価
児童の勤労観・職業観を形成する	A	B	妥当である

【見解】「技科」の取組は充実している。児童の振り返りの機会をさらに充実させていきたい。

③ 生徒指導	取組目標	達成目標	学校関係者評価
児童の豊かな人間関係をつくる。	A	A	妥当である
児童の心の悩みに寄り添い、解消に向けて働きかける。	A	A	妥当である
児童に他を思いやる心を育成する	A	A	妥当である

【見解】児童に寄り添い丁寧な生徒指導はできており、今後も一人一人の個に応じた指導を引き続き充実させる。児童の主体性を大事にした挨拶への取組は効果が出ている。

④ 保健管理	取組目標	達成目標	学校関係者評価
健康観察、保健指導による児童の病気・けがの予防	A	A	妥当である

【見解】十分な保健管理がなされていて問題ない。

⑤ 安全管理	取組目標	達成目標	学校関係者評価
学校事故等の緊急事態発生時に適切な対応をする。	B	B	妥当である

【見解】適切な事故対応はなされているが、今後も組織対応をより充実させていきたい。

⑥ 特別支援教育	取組目標	達成目標	学校関係者評価
組織的な特別支援教育を推進する。	A	B	妥当である

【見解】教職員の組織的な特別支援教育により、一人一人のニーズに応じた支援ができており、児童の自己肯定感が高まっている。

⑦ 組織運営	取組目標	達成目標	学校関係者評価
組織的・効率的な学校運営を推進する。	A	A	妥当である

【見解】主任教諭層の組織分掌についての意識が高く、組織的な学校運営が推進できている。

⑧ 研修（資質向上の取組）	取組目標	達成目標	学校関係者評価
校内研究を通して、授業改善に取り組む。	A	B	妥当である

【見解】昨年度の研究発表の成果と課題から、新たな研究テーマを設定し取り組む教科を変え校内研究を進めている。児童の主体性を引き出す研究は今後も継続する。

⑨ 教育目標・学校評価	取組目標	達成目標	学校関係者評価
児童・保護者・地域の意見等を把握して、教育活動の改善に生かす。	A	B	妥当である

【見解】各種アンケートの意見を反映して、教育活動の改善に順次取り組んでいる。

⑩ 情報提供	取組目標	達成目標	学校関係者評価
学校の教育活動に関する様々な情報を積極的に提供する。	A・A	A	妥当である

【見解】ホームページ等による発信、教育活動の公開を充実させることができた。

⑪ 保護者・地域との連携（コミュニティ・スクール西ケ原としての取組）	取組目標	達成目標	学校関係者評価
コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会の協議をもとに、保護者・地域の協力を得た教育活動を実施する。	A・A	A	妥当である

【見解】充実した取組ができた。今後も緊密に保護者・地域と連携していく。

⑫ 教育環境整備	取組目標	達成目標	学校関係者評価
区と連携し、施設・設備、教材・教具・図書の整備を進める。	A	B	妥当である

【見解】来年度も予算を効果的に執行し、引き続き教育環境の整備に努める。

4 改善の方策についての意見 以下の改善策は妥当である。

課題 重点目標の「教育課程・学習指導」「生徒指導」の取組がうまくいった。特に、学級経営の充実が数値からも確認できる。今後も全体指導と個別支援をバランスよく行うことの継続が課題である。

対応策 学年組織を母体とした学級経営の充実、校内研究を中心とした組織的な授業改善を継続する。個別支援の方策について巡回指導・SC等との連携の場を引き続き設定する。

課題 大幅に増加した児童数に対応したコミュニティ・スクールの取組の再構築が今年度進んだ。10月から始まった約1年に渡る校舎増築工事に伴う学校施設使用制限の中での教育活動の充実が今後の課題である。

対応策 次年度1年間は、使用できる施設の規模、外部施設の活用等を念頭にして、コミュニティ・スクールの本質を大事にしながら、1年間の特別な教育活動の実践方法を模索していく。